

# ふるさとの鼓動 北に生きる心 むすんで

# こぶし

第 134 号

2011年 8月12日発行

発行責任者：横井 正人 編集：機関紙局  
特定非営利活動法人 民族歌舞団こぶし座 北海道函館市陣川町 122-172  
TEL:0138-54-2859 FAX:0138-84-8207 年 2 回発行  
E-mail:kobusiza@wing.ocn.ne.jp http://www18.ocn.ne.jp/~kobusiza/

## 主な内容

- (1) 復興支援公演を前にして
- (2) 今年度の公演計画
- (3) 公演報告(寄稿)
- (4) 第13回通常総会の報告



【3年連続の出演となる海岸町会の港祭りイベント】



【毎年の出演！陣川あさひ町会の港祭りイベント】



【1,700名もの親子連れで賑わった、第1回 植物園夏祭り(市営熱帯植物園)】



## 暑中お見舞い

## 申し上げます。

みなさま、お元気ですか？  
この度の震災で未曾有の被害に遭われた多くの方々に、心よりお見舞いを申し上げます。そして、少しでも早く復興が成し遂げられますことを願っております。

私たち「こぶし座」としても、自分たちの仕事を通して被災された地域のみなさんと心を結びあい、復興支援の一助となる公演活動をしていきたいと考えております。

さて8月となり、いよいよ本格的な夏の到来です。各地でも夏祭りが開催されていることは思いますが、こぶし座も市内の祭りイベント参加で汗を流しています。

稽古場では演技者たちが、間近に迫った今月22日開催の『東日本大震災復興支援』公演の稽古に真剣に向かっています。

この度の公演は、東北地方の芸能で演目構成して行うもので、函館市(復興支援本部)の協力を得て被災地から避難されているご家族を招待して実施します。取材させて頂いた各地の保存会の方々が、心をこめて教えて下さった芸能とその精神性を大切にしながら舞台を努め、ご参加くださるみなさんと想いを共有したいと願っています。  
暑い日が続きます。どうぞ、お元気で!!



東照宮例祭で  
『陣川ばやし』  
初めて披露  
子ども達の囃子の音に  
地域の明日を託して:

こぶし座が本部を置く、ここの函館の陣川町に、一八六四年に五稜郭と蝦夷地の鎮護として勧請された北海道東照宮(函館東照宮)があります。

この地域に住宅が増え町内会が結成されたのは割と最近のことで、こぶし座では、四年前前から町内の子ども達に向けて、自分たちが暮らす地域へ愛情を深めながら育つて欲しいとの願いから、笛と太鼓の指導を行ってきました。

その後、地元のお祭りで奏でる子ども囃子を創りたいと文化庁の助成を受け、町内会と協力しながら子ども達と稽古を重ねて来ました。

そして「陣川ばやし」として創作されたお囃子は、13名の陣川の子ども達によって、明るく活き活きと演奏されるまでになりました。

六月十八日、青少年育成部の方々がトラックの荷台に太鼓をくみ上げ、いよいよお披露目です。子ども御輿と共に、今年からは囃子の音が響きます。凜としたその姿は眩しいほど光輝いて見えました。

東北への想い

「東日本大震災復興支援」公演を前にして

創演部 計良正子

北海道の短い夏を謳歌するかのよう、各地で夏祭りが賑わっている。

こぶし座の地元函館でも「港まつり」が幕を開けた。

巴の港に打ち上げられる花

火が夜空を彩り、浴衣に身を包んだ老若男女二万人の市民が踊りパレードする「ワッシヨイはこだて」港踊りやイカ踊り、青森ねぶたも登場し、姉妹都市となる韓国高陽市の民族舞踊団も参加してのエネルギッシュな祭りとなった。

昭和九年、街の三分の一を焼き尽くした「函館大火」の翌年、開港記念と消失した街の再建を願い、市民を元気づけようと始まったのが「港まつり」：七十七年前、焼土と化した故郷に立ち、函館市民はどんな思いで櫓を囲み唄い踊ったのだろうか。

いま、東日本大震災による壊滅的な被害のなか、復興に向け必死に闘う方々の姿が胸に迫り、「まつり」の持つ意味を改めて考えさせられています。

震災直後の三月二十三日、岩手県陸前高田市で「虎舞」

に人災である原発事故は、人間の生きる根源となる故郷を破壊して来歴をも踏みにじり、未来を奪いさつてしまいました。

震えるほどの恐怖とともに強い怒りが、身体の奥底からこみあげてくるのです。

はるか彼方は 相馬の空かよ

相馬恋しや

なつかしや

故郷の唄に涙する住民たちが、再び笑顔を取り戻すためにも、人間の犯した過ちは、人間の力で変えていくしかないはず。

一人ひとりが真剣に自分と向き合う勇気と行動が、被災地の方々との絆を深め、国を揺り動かす力となって動き始めているのを感じます。

私たちこぶし座も、「芸能の底力」を信じ、心と心をつないでいきます。

豊かな恵みをもたらしてくれる自然は、時として容赦なく人の命を奪い、私たちを深い悲しみと絶望に陥れます。

でもまた、その絶望から立ち上がる勇気を与えてくれるのも、同じ自然の力なのかも知れません。

しかし、この度の、明らか

な

今年度の制作活動は、被災地への連帯の輪を広めながら多くの道民と繋がりを深め、生活と地域に深く根ざした、楽しくて元気の湧く芸能を広めることを目指します。

専任担当(中尾)が全道を走り、「今」を報告します。

新たな動きの中で 制作担当・中尾雄児

三月末から秋期公演の準備に入る。大震災や原発事故の直後だけに、それどころでないよと言われることも覚悟して。

木古内町は函館から車で五十分。人口五千二百人。実行委員会の立ち上げが難しい町で五年前は手打ち公演だった。ところが今回は準備会に四人も集まってくれ、「震災・原発事故、このまま黙っていても暗くなる、こつこつうただから取り組もう」と、『木古内インこぶし座』が発足した。これなら、他地域でもできそうな気がしてきた。

そこで、二十三年前に公演した人口二千人の留寿都村へ。

長沼町は人口一万二千人の米どころ。空知では唯一の未公演の町。「豊年こいこい」を見てほしくて農家の町議宅へ伺う。

「青年団の時に劇団を取り組んだ。こぶし座で若い人たちにも経験させたい」と期待される。高校の先生からも紹介され、公演が実現しそうに思えてくる。

この六十一日間で一万二千人走り、百五十余人と面談。誰もが震災と原発事故で危機を募らせ「何かしなくては」と話してくれた。私には「こぶし座がんばれ」と聞こえ、もう一つ繋がれば、目標の一七個所の公演が実現しそうに思えてくる。

今年度の公演計画 7/31 現在=

- <一般公演>
  - 6/26 北広島市・<東日本大震災支援>西の里虹ヶ丘公演
  - 8/22 函館市・震災復興支援公演
  - 9/3 旭川市・神楽岡文化祭
  - 10/2 森町・盛年おたのしみ会
  - 11/11 木古内町・中央公民館
  - 11/13 留寿都村・公民館
  - 11/20 興部町・公民館
  - 11/27 美瑛町・町民センター
  - 11/29 比布町・農村環境改善センター
  - 12/6 長沼町・総合福祉センター
  - 12/7 栗山町・角田農村環境改善センター
- <学校公演>
  - 7/5 西興部村・小中合同
  - 7/6 遠軽町・白滝丸瀬布
  - 7/20 函館市・中島小学校
  - 8/30 札幌市・上白石小学校
  - 9/1 函館市・北美原小学校
  - 9/5 浜中町・巡回小劇場
  - 9/6 釧路市・朝陽小学校
  - 9/9 札幌市・平岸高台小学校
  - 9/14 札幌市・中央小学校
  - 9/15 札幌市・伏古北小学校
  - 9/20 函館市・高丘小学校
  - 9/28 札幌市・藻岩北小学校
- <幼稚園・保育園公演>
  - 10/5 札幌市・栄町あおぞら保育園
  - 10/6 札幌市・白楊幼稚園
  - 10/11 更別村・全村の保育所
  - 10/12 札幌市・北の星白石保育園
  - 11/2 札幌市・はまなす幼稚園
  - 11/4 札幌市・厚別幼稚園
  - 1/10 函館市・つくしの子保育園
  - 1/11 函館市・高砂保育園
  - 1/12 函館市・青い鳥保育園
  - 1/13 函館市・つくみ保育園
  - 1/30 札幌市・澄川保育所
  - 1/31 札幌市・北の星白石保育園
  - 2/1 札幌市・柏葉保育園
  - 2/2 札幌市・石山保育園
  - 札幌市・くまの子保育園
  - 2/3 札幌市・川沿保育園
  - 2/4 札幌市・桑園保育所
  - 3/13 札幌市・しせいかん保育園

昨年の秋からスタートさせた4人体制での新しい一般公演を、一〜三月も全道的に継続実施しました。

十一市町13カ所の開催地の中から、地元、函館市桔梗町で実施した公演の様子を、主催事務局としての中心的に奮闘して下さった桶谷さんに寄稿して頂きましたので、みなさんにお伝えします。

### こぶし座桔梗公演を 心ひとつに

取り組んで…

実行委員会事務局長  
桶谷黄右工門

当初「桔梗公演は成功しない」と予想されておりましたが、それだけに「何くそ！」の思いが強くなりました。約二か月を経て、実行委員会を発足させ、年明け早々本格的に入場券の普及に努めました。

公演は二月十三日(日)、三育小学校体育館で一五〇余名の入場者があり、観客と舞台が笑いと手拍子で終始つながっていました。公演準備もさることながら、当日の会場設営、後始末と、実行委員のみなさんは、とても個性を發揮しつつ、意欲的に今出来ることを懸命にやって下さいました。公演サポーターの前売り券普及活動、三育小学校PTAのOBのお力添え、三育小学校校長の「気持ちよく公演できるよつじ」との配慮、

また、地域住民の駐車場無償使用と除雪など、多くの支えと協力がありました。

\*

何よりも地域のみなさんが「こぶし座」をよく知っていて、日本の伝統的文化を継承発展させようとの日常的な真摯な姿に魅力を感じ、心ひかれて公演を待ち望んでいたことがよくわかる桔梗公演でした。それだけに、実行委員のみなさんは、とてもこの半年近く尽くして下さいました。

改めて、心よりお礼申し上げます。都合で実行委員会に参加できなかった方、サポーターの方々へ「実行委員会ニュース」を届けたりして、進行状況を全員が把握するようにしたことはとても良かったと思います。パソコン印刷の技術や乗用車のない私にとって力になって下さった地域のお二人、そして経済的にも、また、多くの助言を下された志賀松設備工業の社長さんには、お礼の申し上げようもない程お世話になりました。

わたしの最後の仕事は、公演参加者のアンケートや感想をとりまとめて印刷し、関係者に届けることであり、お礼の挨拶回りでした。

正直言って、七九歳の身にはありませんでしたが、氣力粘り腰で全うすることが出来ました。多くの人々との出会い、さまざまな経験は、またとない人生経験となりました。こぶし座のみなさん、本当にご苦労様でした。日本の伝統的文化を発展させるために、更なる精進を期待し、ペンを置くこととします。



公演後、実行委員への歌のお礼…。

#### 【函館・桔梗地域】

このエリアは、こぶし座にとっても特別の繋がりのある地域です。座員・村田の実家があり、文中にも出ている志賀松ご夫妻も住んでいます。ちなみに、二人は座の社員でもあり、また夫人の智慧美さんは後援会の副会長として尽力してくれています。

## 短 信

五月十日、むかわ町立仁和中学校の修学旅行生たちが、こぶし座へ!!

「ソーラン節」体験のため来座した三年生男子5名。なんと引率の校長先生と養護の先生も体験に参加。

身振り手振りを一生懸命に真似て踊りに挑戦する素直な姿に指導にも力が入ります。まための発表。「…間違えたらあたたかく見守って下さい。ハアドッコイショ！」と15歳の少年たちが荒海へ船を漕ぎ出し、もちろん大漁！最後に、お礼にと聞かせてくれた合唱。たとえばきみ



体験学習を終えてポーズ！(左端が担任の佐々木敏先生)

が傷ついてくじけそうになったときは、しっかりと前を向き大きな声で歌う歌声が心に響き涙が流れました。

先日、大変ありがとうございました。最後の担任として(来年の3月に退職)思い出がりました。本当は、生徒と一緒に踊ればもっとよかったですと思っています。

また、来年でこの仁和中学校は閉校になり、今年の3年生が最後の卒業生になります。そういう意味においても、修学旅行で何か一つにまもって取り組むものを考え、こぶし座をお願いしました。

生徒は正直に言いますと、あまり気乗りしなかったのですが、座員の教えに答えながら、一生懸命踊っていました。最後のお礼としての合唱をつたっている姿を見ながら感動し、私は涙が出そうになりました。よき思い出として、ずーと心にとめていきたいと思っています。(担任)

#### 第13回「通常総会」開かれる。

復興支援 心を繋ぎ、連帯の輪を…!

さる、四月二十九日(金)第十三回通常総会」が行われました。社員総数十九名、出席数十四名。横井理事長の挨拶の後、開会となりました。

\*

第一号議案「二〇一〇年度事業報告」では、道内5つの振興局での助成事業として実施した一般公演など、百六十七回(一七、四〇八人)の公演

収支決算報告」では、公演収入目標達成が昨年同様に困難であったなかで、雪害による屋根破損の緊急修理を行いながらも運営費の減に努め、大口寄付金による力強い支援のおかげで何とか経営を維持できたことが報告されました。

\*

第三号議案「二〇一〇年度事業計画」では、特徴的な柱として「東日本大震災の復興を願う今年度の「こぶし座公演」を被災地復興支援の共同

講師を任せられ活動したことが報告されました。

第二号議案「二〇一〇年度

の仕事と位置付け、民族芸能を通して東北と北海道の心を繋ぎ、連帯の輪を広げていく活動を展開して行く。』ことを大きな方針と掲げました。

第四号議案「二〇一〇年度収支予算」では、震災後の社会状況のなかで一段と厳しい財政運営が求められることを想定しながらも、本部建築物の修繕継続や借入の返済、そして多くの人々と結び合いながらの目標達成が提案されました。以上、全議案が承認され審議を終わりました。

尚、体調不良で休座していただきました田畑悟志は、退座による脱退と確認されました。

今年も開講!!

第八回 札幌講座

今回で8回目を数える恒例の札幌「笛・太鼓講座」。例年通り、東区の「あゆみ幼稚園」を会場に7月9、10日と二日間の実施でした。今年も、思わぬ諸事情によるキャンセルが多く出て、参加者の少ない講座でしたが、実践を控えた保育士たちも多

ロシア文化フェスティバル 2011 in JAPAN オープニング行事 函館市で開催!

函館が、日本で最初のロシア領事館が開設されたゆかりの地であることから、地方都市では初めて、オープニング行事の開催地に選ばれ、6月30日から関連の催しが行われました。実は、このフェスティバルの事務局より私たちこぶし座に声がかかり、二〇〇八年の10月に、日本の代表団一行としてロシア(モスクワ市)公演を行っているのです。(ロシア文化省・日本領事館主催) そのような縁で、7月2日のオープニング・パーティーに招待頂き、代表・横井正人と計良徹が出席しました。当日は、両国の政府関係者

く、受講意欲も旺盛で、気合いの入った内容でした。



【実践頑張るぞー!】

や経済人を始め、三百人ほどの各界の代表でいっぱい。ロシア文化フェスティバルの日本組織委員会副委員長を務める、女優の栗原小巻さんが進行役で、終始和やかで華やいだパーティーでした。

また、他の催し(ポリシヨイサーカス・ロシア民族合唱団など)にも招待やお誘いを受け、訪口時のことを思いおこしながら楽しいひと時を過ごさせてもらいました。

鳥の形をした土笛の背中にはスリットがあり、一方の穴から吹くと不思議な音が出るのです。縄文の人たちは、どんな想いで吹いたのでしょうか?



【オープニング・パーティーの様子】

6月11日(土)に、NPO法人函館市埋蔵文化財事業団の調査員・坪井睦美さんを講師に、函館市南茅部地域の垣ノ島A遺跡から出土した土笛形土製品(鳥の形)を模倣して、粘土で製作体験をしました。手のひらにのる程の大きさで、中を空洞にして輪積み

まなぶ

《貴重な体験...!》 = 縄文の笛づくり =

していきます。全体に縄模様を施して竹くしで模様を描き焼きあげて完成です。

鳥の形をした土笛の背中にはスリットがあり、一方の穴から吹くと不思議な音が出るのです。

縄文の人たちは、どんな想いで吹いたのでしょうか?



【完成した縄文土笛を持って】 ~ 右上の方が坪井睦美さん ~

旅のスケッチ施設編

森の美術館「木夢」

網走管内・西興部村

今年度の学校公演は、7月5日の西興部村・小中学校合同公演がスタートでした。前回の世話になってから、12年ぶりに伺いました。教育委員会の関係者の方々には、30年ほど前から様々な形でお世話になっている繋がり深い自治体です。

今回の公演のために、前日から村内に移動。教育委員会の方々のほかに、念願の「木夢」を特別に見学させてもらうことができました。

素敵な木のおもちゃ達が、イッパイ!! 時間を忘れてしまいそう...。そして空間が大きいこと大きいこと。

大人の皆さんも確実に癒やされますヨー。

皆さんも是非、お子さんと一緒に楽しんでみては?

《西興部村》 森の美術館 『木夢』 TEL:0158-87-2600 E-mail ni.komu@vill.nishiokoppe.hokkaido.jp



【「木夢」のなかの大きな遊園地】

こぶし座本部の 修繕工事 順調に作業進む...

こぶし座の本部(稽古場・事務所・共同住宅)も、建設後16年が経過しました。

3年前から、計画的に修繕工事を始めていますが、1年目は、鉄骨・鉄筋部のケレン工事。2年目の昨年度は、雪害による住宅屋根破損の緊急修理と外壁の塗装、そして今年度は、屋根及び鉄骨部分の全面塗装を実施しています。

これらの工事を一手に引き受けてくれているのは、近所に住むマコト建設の安藤さんで、後援会にも入会してくれている頼もしい大工さんです。(座の看板の柱提供や据え付けをやってくれた方で日頃から会館周りの草刈りなどメンテナンスに気を配ってくれています。)

今回も、こ



【本部棟の屋根は高いんです!】



【アップするとこんな感じ...】



【搬入口も見違えるほど!】

の工事に伴って、本部建築物の付帯設備にも修繕の手を加えてくれています。また、念願だった搬入口へも看板を据え付けてくれました。活動の拠点をいつまでも使い続けるために、内外装を含め来年度も修繕工事を継続させる計画です。